

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101037
法人名	医療法人 ミネルワ会
事業所名	グループホーム ミネルワ
所在地	松山市衣山5丁目717-1
自己評価作成日	平成 27 年 3 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 3 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節ごとの行事を取り入れている。 ・母体が病院なため、急変時等は24時間体制で連絡、対応してもらえる。 ・歩行の時間、ラジオ体操の時間、口腔体操、シナプソロジーなど様々な体操を取り入れ身体機能の維持向上に努めている。 ・写経、習字、計算プリントなど個々のケースにあった活動をしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年3月に開設された事業所は、閑静な住宅街にあり、周辺の建物と違和感のない建物である。事業所の理念と5つの基本方針を、開設に携わった役職員が話し合い作成しているほか、毎月目標も作成している。開設1年目であるが、施設長は地域との繋がりを意識し、職員が協働して事業所を作り上げる体制ができており、話しやすい雰囲気の下で、施設長や管理者など日々話し合いより良い事業所作りに取り組んでいる。利用者毎の担当職員があり、介護計画の原案の作成やモニタリングを中心となっていくほか、家族との連絡、外出など一連のサービス提供にも携わっている。母体病院から月2回の往診があるほか、24時間体制でも連携が取れており、利用者や家族は安心感がある。また、毎月体重測定をしたり、歩行や立ち上がりのリハビリを取り入れたりするなど、利用者の身体機能の維持や健康管理に努めている。近所の池の亀のエサやりやアンパンマン列車を見に行くなど、少人数でも外出できる多くの機会がある。誕生日には利用者が希望する回転すしや喫茶店などに出かけたり、家族と共に交流できる関係作りに配慮するなど、利用者本位のサービス提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ミネルワ

(ユニット名) 睦月

記入者(管理者)

氏 名 施設長 竹村千秋 ・ 管理者 芳野真季

評価完了日 平成 27 年 3 月 9 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の掲示を行い、職員に共有できるようにし、月一回の ミーティングでの話し合い時にも再確認できるようにしてい る。 (外部評価) 開設当初に役職員が中心となり、法人の基本理念を踏まえて 事業所独自の基本理念を作成している。基本理念は玄関に掲 示し、パンフレットにも分かりやすく記載している。また、 理念を実現するために5つの基本方針を作成し、日々実践で きるよう努めている。また、ミーティングで職員間で意見を 出し合い毎月の目標を作成しており、3月は「感謝の心を忘 れず」という目標を定め日々実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 公民館行事への参加も積極的に行い、グループホームでの行 事には、近所の方への参加もお願いするなど、地域とのつな がりを持つよう努力している。 (外部評価) 町内会長や回覧板から地域の情報を得て、もちつき大会や文 化祭などに積極的に参加している。また、事業所での夕涼み 会などの行事を開催する際には、近隣住民にお知らせし参加 してくれることもある。日頃から事業所周辺の散歩時には、 犬の散歩をしている住民などと挨拶を交わしている。また、 地域住民が作ったのおすそ分けや声かけをしてくれることも ある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 開設したばかりで、まだ十分にできていない。 今後は、地域住民に向けて認知症の理解を深めてもらえる機 会づくりを行っていく。現在は、第4回ミネルワ便りを発行 し、運営推進会議に参加していただく地域の方々に、取組 み状況をお知らせしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一回の運営推進会議を定期的に行い、ホームでの活 動内容や入居者の様子等を、写真等を活用し報告している。 また、会議で出た意見や助言等も積極的に取り入れている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、町内会長、民生委員、地域包括支援セ ンター職員、市介護保険課職員等の参加を得て開催してい る。会議では、編集した映像をテレビで分かりやすく参加者 に報告する工夫をしている。会議の開催はリビングのテーブ ルで開催しており、利用者も普通に集まりながらテレビ映像 での報告を見ており、利用者から感想を言ってくれることも ある。また、参加者からイベントの案内をいただいたり、意 見交換などを行ったりしている。参加者から出された意見か ら、職員の写真と名前を事業所内に表示することに繋がって いる。施設長は、今後、近隣住民の参加の呼びかけも検討し ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加時には、行政の担当者と話ず機会を持 ち、相談できる関係づくりに努めている。	
			(外部評価) 事業所の立ち上げの時期から市の担当課と連絡を密に取り、 開設後も介護保険課に加えて地域包括支援センターや福祉課 の生活保護担当者などとの連絡も取り合っている。また、施 設長は市社協が行っている地域密着型サービス事業所の交流 会に参加することもあり、介護計画の事例発表の情報交換を するなど相互の協力関係づくりを意識している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、玄関・フロア入口とも施錠せず、出入りした場合に チャイムが鳴るようにしている。入居者が落ち着きなくなっ た場合には、一時的に植木等を置き、付添のない状態での外 出をふせいでいる。 ベット臥床時に転倒転落の恐れがある方には、ベットコール を使用。必要に応じ、衝撃吸収マットを使用している。	
			(外部評価) 日中玄関は施錠をしておらず、人を感知するセンサーを利用 し見守りをしている。訪問調査日には外出しようとする利用 者も見られたが、職員が寄り添い声かけをする様子が見ら れ、日頃は散歩などに出かける対応もしている。居室でセン サーマットを使用している利用者もあり、見守りや声かけな どの柔らかな対応を心がけている。また、法人等が実施する 接遇に関する研修で職員への理解を促すほか、ミーティング 時に施設長は声かけの指導や気になることは注意をしてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 開設時の新人研修の際には行ったが、引き続き高齢者虐待についての理解を深め、意識統一できるよう職員への繰り返しの研修が必要である。ケースごとに対応方法等の話し合いは行っており、発生防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 開設時の新人研修では行っている。月一回のミーティングとホーム内研修の際に取り上げ、制度の理解を深めていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結時には説明を行い、質問に答えるようにしている。改定等があった場合は、文章での説明を行い、不明な点については、面会時や電話等に対応するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や電話、運営指針会議開催時等で、家族の意見や意向を確認している。また、本人へは日常会話やかかわりの中で意向を確認している。意見があった場合は、内部で話し合いを行い、意向にそうよう努力している。3月19日に初回の家族会議の開催を計画している。	
			(外部評価) 意見箱の設置はないが、家族の面会時には職員から積極的に声をかけ、利用者の状況を伝え意見を伺っている。以前、利用者の体重の増減が見られた家族から食事に関する意見が出され、定期的にBMIをチェックして甘いものなど食べ物を調整したりするなど、日々の健康管理にも繋がっている。また、家族から「他の利用者と一緒に食事などをさせて欲しい」という意見が出され、定期的に座る場所を変えている。利用者の食事の座席を定期的に移動やリビングの模様替えにも繋がっている。また、家族会を初めて実施し、家族から「介護は大変よね」などの意見が聞かれ、家族同士の交流や情報交換にも繋がっている。利用者から「〇〇に行きたい」などの意見が出され、少人数でも外出できる対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) リーダーや管理者は、スタッフとのコミュニケーションをとり、関係づくりに努めている。ミーティング時や個別の面接を行い、職員の意見や提案を聴くように努力している。実際に、運営に反映したこともある。 (外部評価) 開設時から一緒に勤務している職員が多く、ミーティングや日常会話の中で意見を言いやすい環境づくりができています。職員から「〇〇したいんだけど」などの意見が出されることも多く、食事のメニューを増やすため定期的に外部業者からの宅配食材を利用したり、浴室内に追加で手すりを設置した事例もある。事業所内で解決できない場合は、法人本部へ意見を吸い上げて改善に繋がることもある。施設長は年1回職員と面談を実施し、職員から日頃聞けない意見を聞くことができ、日頃の業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員との個別面接を行い、情報収集に努めている。個別面接の実施は、今年度1回のみとなったが、もう少し回数を増やしさらに職場環境の整備に努めていきたい。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ホーム内・グループ内への研修への参加や、外部研修へ参加もできる体制を整え実践している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 松山市社協が主催の交流会へ参加をしているが、時間が作れず、参加が難しくなっている。今後は、様々な研修会に参加するよう心がけたい。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) コミュニケーション技術の向上を図り、本人との信頼関係が築けるように努力している。ケースによっては本人の要望が十分に聞けないケースがあるが、関わりの中で要望の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に、面談等でアセスメントを行いニーズの把握に努めている。必要な場合は、複数回の面談や電話連絡を行い、信頼関係づくりをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) グループホームへの入居だけでなく、その他のサービスの利用についても説明を行うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の残された機能・能力が最大限に発揮できる支援になるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族への連絡・報告をこまめにし、家族と相談しながら一緒に支援の方向性を決めたり、家族の協力を得たりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力を得ながら、自宅へ外泊したり、友人との面会や電話連絡の機会をもてるケースがある。出来るだけ在宅での関係が継続できるようにしている。 (外部評価) センター方式を利用して、入居前に利用者や家族からアセスメントを行い、馴染みの場所などを把握している。利用者の希望に応じて、お墓参りや以前住んでいた家の近くに出かけられるよう支援しており、近くに住んでいた友人と会話を交わすこともある。職員は外泊や外出などの希望を確認し、家族と共に外食を楽しんだり自宅に宿泊する利用者も多い。また、友人や民生委員などが尋ねて来ることもあり、馴染みの人との繋がりが継続できるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中はリビングで過ごし、入居者同士の関わりが持てている。入居者の個性の把握に努め、席の配置等も考えて、円滑なコミュニケーションが取れるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 今年度に、サービス利用が終了になったケースはないが、今後そのようなケースが生じた時には、出来る限りの支援に努めていく。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) プランの作成・見直しに合わせて意向の確認を行っている。聞き取りが困難なケースに関しては、自分や自分の家族に置き換え、スタッフ間で話し合いを行っている。 (外部評価) センター方式の「私の暮らし方シート」を使用して、利用者や家族の思いや意向など聞き取りをしている。聞き取った内容は、ミーティングやカンファレンスで計画立案やモニタリングなどに活かしている。訴えの難しい利用者には、家族や以前利用していた施設から情報を聞き取り、ミーティングなどで意見を出し合い、利用者位の支援を検討している。「自宅で暮らし続けたい」という利用者の思いもあり、難しいこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅のケアマネージャーや入院先の病院等から情報収集を行い、入居前の生活状況の聞き取りに努めている。また、本人や家族との面接や自宅訪問も行い、生活環境の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居時の聞き取りの中で、一日の過ごし方については、聞き取り十分とまでは言えないが、心身状態や有する力等の情報収集は行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ホーム内での担当者会は適宜行い、プラン作成している。担当者会への家族参加が難しい場合は、面会時や電話連絡時に意向の確認を行っている。ユニットごとに意見を出し合い、プラン作成している。 (外部評価) 介護支援専門員と利用者毎の担当者がアセスメントやモニタリングを適宜行い、介護計画の原案を作成している。また、月1回のミーディング後にユニット会でカンファレンスを行っており、利用者や家族の意向などの意見も含めて職員間で意見を出し合い話し合っている。また、モニタリングの評価や状態の変化により介護計画を見直すほか、定期的に見直しをしている。	入居の際には家族も参加して話し合いが十分に行われているが、入居後においても利用者の状況や意向の把握と介護計画の変更などに関する検討は重要である。利用者などに状況の変化があった際には利用者や家族に参加を呼びかけ、話し合いが実現されることを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 訴え・様子（客観的な情報）・課題判断・方針に分けてケア記録を記入しており、情報共有や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 介護保険のみのサービスにとらわれず、介護タクシーやヘルパー利用等をしているケースもある。話し合いの中で、必要があればサービスの紹介等も行っていく。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣のスーパーに買い物へ行ったり、公園や施設の利用をしている。地域資源との協働については、ボランティア参加によるレクリエーションを行っているが、今後は種々の地域資源を広く把握し、充実に努めていきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 同法人から月二回往診に来てもらっているが、必要時には受診も行っている。同法人以外への受診についても本人・家族の希望があれば、家族の協力のもと受診している。 (外部評価) 入居時に利用者や家族の希望するかかりつけ医を選ぶことができる。希望するかかりつけ医は家族の受診介助を基本としている。母体病院から月2回往診があり、24時間体制で連携が取れており、状態の変化があれば家族にすぐに報告し、病院の受診も職員が協力しながらできていることで、利用者や家族の安心にも繋がっている。施設長は看護師資格を持ち、日々の健康管理や夜間など緊急時の連絡にもスムーズに対応することができている。また、歯科や皮膚科の往診体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師との連携・情報共有は適宜行えている。また、判断に迷うような事はその都度相談できている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の受け入れがスムーズにできるように、情報の提供や支援を行っている。また、入院中も病院側との関わりを持ち、退院時の受け入れが出来るようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 受入の際には、重度化や終末期の説明を行っており、病院の医師や看護師、家族と相談しながら方向性を決めている。 (外部評価) 「看取りに関する指針」などは策定していないが、「医療連携及び重度化した場合における対応について」「看取りについての事前確認書」を作成しており、入居時に利用者や家族に説明して、事前に看取りの確認書を記入してもらっている。今までに重度化や急変した利用者はいたが、病院へ転院している。施設長は今後は事業所での看取りが必要となることを認識しており、看取りに関する外部研修の伝達を行うなど、職員のレベルアップや不安の軽減を検討している。	看取りについての職員に対する研修は、伝達研修に加えて職員同士で話し合いをする勉強会を実施するなど、職員の不安の軽減となる取組みを期待したい。また、看取りを実施するにあたり、協力体制を整える準備をしていくことも望みたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応については、ホーム内研修を行っているが、全てのスタッフが十分対応できるように研修内容の充実を検討していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) H26年度に、消防訓練を2回実施。また、地域との協力体制づくりについては、消防訓練時に町内会長や民生委員にも参加いただいて実施しているが、今後は自主防災会等の関係づくりをするよう努めていく。 (外部評価) 防災マニュアルを整備し、日中と夕方を想定した避難・消火訓練を実施している。訓練には地域住民への呼びかけも行っているが、地域住民の参加はごくわずかとなっている。避難訓練は、開設して1年ということもあり利用者の参加は様子見の段階であるが、消防署から「次回の訓練は利用者も一緒に訓練してください」とアドバイスをもらっており、利用者が実際に参加した訓練を実施予定である。また、施設長は地域の自主防災会との関係作りも模索している。	消火・避難訓練などに加えて、防災用の備蓄品の用意を検討し、準備していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者のプライバシーを確保できるよう心掛けている。言葉かけの内容や、声の大きさ、対応方法などは入居者様により使い分けている。 (外部評価) 利用者の呼び方は利用者や家族に確認し、性や名、馴染みのある特別な呼び方をするなど工夫をしている。職員は利用者にとって分かりやすい声かけをするよう配慮すると共に、トイレ誘導時には耳元で小声での声かけをしている。年4回発行している「ミネルワ便り」への写真など、事業所を利用していることを知られたくない利用者や家族に配慮し、適切な個人情報の取り扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 散歩や買い物、観劇等は本人に選択してもらえる言葉かけや関わりを心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 全てを一人ひとりのペースにすることは難しいと思うが、可能な限り希望にそえるよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人と家族の希望を確認し、家族と美容室に出かけたり、スタッフと衣類の買い物に出かけている。入居者の状態によるが、自分で着る洋服を選ぶことの出来る方には、そのように対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者の出来る事を見極めて、一緒に調理してもらったり、盛り付け、配膳、後片付け等をしている。 (外部評価) 月に半分程度は外部業者に食材を発注し調理することで、食事のメニューが増え利用者に喜ばれている。残りは事業所内でメニューを考え、専属の調理員が月～金曜の昼食と夕食の調理をしている。朝にその日の昼食で食べたいものを利用者から聞くこともあり、うどんなどの麺類を調理するなど、メニューに対する要望や意見を聞く努力がなされている。月2回利用者の好きな新鮮な「さしみ」を提供し、食事が楽しみになる工夫をしている。リビングにあるアイランドキッチンには開放的で、簡単な調理や皿洗いなどできることを手伝ってもらったり、男性の利用者もテーブル拭きなどを手伝っている。また、食事前には健口体操をし、口腔ケアにも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 十分な栄養摂取は出来ているが、定期的な体重測定を行い、適切な体重コントロールが出来るよう支援している。また、必要なケースについては、水分量のチェックも行っている。入居者の好き嫌いも把握し栄養摂取できるように工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを実施し、スタッフの支援が必要なケースについてはスタッフが介助している。また、治療が必要な入居者や口腔ケアを希望する入居者には、歯科往診にて対応しスタッフとの連携もとっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、排泄リズムの把握に努め、トイレ誘導等を行っている。出来る部分は入居者にしてもらえよう声掛け等をしている。 (外部評価) 排泄チェック表を活用し、排泄の自立に向けた取り組みがなされている。履くパンツから布パンツへの改善された利用者が2名おり、職員はトイレ誘導などに力を入れている。運動や腹部マッサージ、水分摂取など緩下剤をなるべく使用しない取り組みがなされ、難しい場合は下剤での対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動、腹部マッサージ・ホットパック、水分摂取、牛乳、オリゴ糖の飲用等の工夫を行っている。重度の便秘時には主治医に相談している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番や午前・午後の希望については出来る限り意向にそうようにしている。入浴の回数に関しては、清潔を保持するため週3回の入浴を決めている。今後は本人や家族の意向を確認し、個別に支援できるように検討したい。 (外部評価) 入浴時間はできる限り利用者の希望に添えるよう努め、誘導を工夫しながら週3回の入浴を実現している。体調が悪く入浴できない場合には清拭を行い、汚染時はシャワーを使用するなど清潔保持に努めている。また、ゆず湯や肌がしっとりする入浴剤などを活用したり、ゆらら温泉に足湯に行くなど、入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の習慣や体調に合わせて、休息の時間を持ってもらえるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用等の説明書をカルテに挟み、スタッフがいつでも見れるようにしている。また服薬管理表を作成し、薬の変更等が分かるようにしている。薬の変更があった場合は、身体状況などを細かく支援経過に記録するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人のしたい事、行きたい所、食べたいもの等を日々の会話の中から引き出し、出来る限り実現できるようにしている。本人の出来ることは積極的にしてもらえよう心掛けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所への外出、散歩やドライブなど、可能な時は声掛けし外出の支援を行っている。家族の支援で外出する方もいるが、地域の協力での外出は、今のところはない。 (外部評価) 利用者の希望や状況に応じて、近所のスーパーやコンビニに買い物に出かけたり、近くの池にいる亀にえさをやりに行ったり、ドライブに出かけるなど、天気や人員配置を工夫して数多く外出できるよう支援している。外出の際には家族にも声をかけ、歌謡ショーや宝塚の松山公演、イチゴ狩りなどに出かけている。その日の利用者の希望を聞いて、少人数で外出することも多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物時の支払いを、入居者にしてもらう事はある。本人の所持金は預かってないため、支援できる方法はないか検討していきたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要な場合には、電話をしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が心地よく過ごせるように、環境については配慮している。また、季節を感じられるように花を飾ったり、飾りつけをしている。 (外部評価) アイランドキッチンは開放感があり、ソファなどがある広いリビングと畳スペースもあり、くつろげる空間となっている。居室の入り口から廊下へ出る部分は「アールデコ」という建築様式を取り入れた空間の配慮がなされており、廊下の収納も有効活用されている。また、玄関に季節の飾りをしたり、リビングでメダカを飼育したりしており、居心地の良い空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングには、ソファが置いてあり、皆で過ごせるようにしている。また、和室もあり少し離れて過ごす事も可能にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に置く物については、使い慣れたものを持ってきてもらうように説明している。家族写真や好きな物の写真等を飾っている入居者もいる。 (外部評価) 居室は広く、ベッド、エアコン、カーテンが備え付けられている。家具やテレビ、いす、写真立てなど使い慣れたものを持ち込み、生活しやすい空間作りをしている。ベッドの配置は自宅での生活状況を踏まえて配置する工夫をしており、利用者にとって居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、居室に張り紙や目印をつけて分かりやすくしている。身体状況に合わせて、車いす移動やシルバーカーの使用等で、自分で移動できるようにしている。一人ひとりの状況把握に努め、必要な支援を行うように心がけている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101037
法人名	医療法人 ミネルワ会
事業所名	グループホーム ミネルワ
所在地	松山市衣山5丁目717-1
自己評価作成日	平成 27 年 3 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 3 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節ごとの行事を実施している。 ・母体が病院なため、急変時等は24時間体制で連絡、対応してもらえる。 ・生活の中での役割作りに留意し、出来る家事を行ってもらうように働きかけている。 ・ラジオ体操、口腔体操、シナプソロジーなど様々な体操を取り入れ、身体機能の維持向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年3月に開設された事業所は、閑静な住宅街にあり、周辺の建物と違和感のない建物である。事業所の理念と5つの基本方針を、開設に携わった役職員が話し合い作成しているほか、毎月目標も作成している。開設1年目であるが、施設長は地域との繋がりを意識し、職員が協働して事業所を作り上げる体制ができており、話しやすい雰囲気の下で、施設長や管理者など日々話し合いより良い事業所作りに取り組んでいる。利用者毎の担当職員があり、介護計画の原案の作成やモニタリングを中心となって行うほか、家族との連絡、外出など一連のサービス提供にも携わっている。母体病院から月2回の往診があるほか、24時間体制でも連携が取れており、利用者や家族は安心感がある。また、毎月体重測定をしたり、歩行や立ち上がりのリハビリを取り入れたりするなど、利用者の身体機能の維持や健康管理に努めている。近所の池の亀のエサやりやアンパンマン列車を見に行くなど、少人数でも外出できる多くの機会がある。誕生日には利用者が希望する回転すしや喫茶店などに出かけたり、家族と共に交流できる関係作りに配慮するなど、利用者本位のサービス提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ミネルワ

(ユニット名) 如月

記入者(管理者)

氏 名 施設長 竹村千秋 ・ 管理者 芳野真季

評価完了日 平成 27 年 3 月 9 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の掲示を行い、職員に共有できるようにし、月一回の ミーティングでの話し合い時にも再確認できるようにしてい る。 (外部評価) 開設当初に役職員が中心となり、法人の基本理念を踏まえて 事業所独自の基本理念を作成している。基本理念は玄関に掲 示し、パンフレットにも分かりやすく記載している。また、 理念を実現するために5つの基本方針を作成し、日々実践で きるよう努めている。また、ミーティングで職員間で意見を 出し合い毎月の目標を作成しており、3月は「感謝の心を忘 れず」という目標を定め日々実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 公民館行事への参加も積極的に行い、グループホームでの行 事には、近所の方への参加もお願いするなど、地域とのつな がりを持つよう努力している。 (外部評価) 町内会長や回覧板から地域の情報を得て、もちつき大会や文 化祭などに積極的に参加している。また、事業所での夕涼み 会などの行事を開催する際には、近隣住民にお知らせし参加 してくれることもある。日頃から事業所周辺の散歩時には、 犬の散歩をしている住民などと挨拶を交わしている。また、 地域住民が作ったのおすそ分けや声かけをしてくれることも ある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 開設したばかりで、まだ十分にできていない。 今後は、地域住民に向けて認知症の理解を深めてもらえる機 会づくりを行っていく。現在は、第4回ミネルワ便りを発行 し、運営推進会議に参加していただく地域の方々に、取組 み状況をお知らせしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一回の運営推進会議を定期的に行い、ホームでの活 動内容や入居者の様子等を、写真等を活用し報告している。 また、会議で出た意見や助言等も積極的に取り入れている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、町内会長、民生委員、地域包括支援セ ンター職員、市介護保険課職員等の参加を得て開催してい る。会議では、編集した映像をテレビで分かりやすく参加者 に報告する工夫をしている。会議の開催はリビングのテーブ ルで開催しており、利用者も普通に集まりながらテレビ映像 での報告を見ており、利用者から感想を言ってくれることも ある。また、参加者からイベントの案内をいただいたり、意 見交換などを行ったりしている。参加者から出された意見か ら、職員の写真と名前を事業所内に表示することに繋がって いる。施設長は、今後、近隣住民の参加の呼びかけも検討し ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加時には、行政の担当者とは話す機会を持 ち、相談できる関係づくりに努めている。	
			(外部評価) 事業所の立ち上げの時期から市の担当課と連絡を密に取り、 開設後も介護保険課に加えて地域包括支援センターや福祉課 の生活保護担当者などとの連絡も取り合っている。また、施 設長は市社協が行っている地域密着型サービス事業所の交流 会に参加することもあり、介護計画の事例発表の情報交換を するなど相互の協力関係づくりを意識している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、玄関・フロア入口とも施錠せず、出入りした場合に チャイムが鳴るようにしている。入居者が落ち着きなくなっ た場合には、一時的に植木等を置き、付添のない状態での外 出をふせいでいる。 ベット臥床時に転倒転落の恐れがある方には、ベットコール を使用。必要に応じ、衝撃吸収マットを使用している。	
			(外部評価) 日中玄関は施錠をしておらず、人を感知するセンサーを利用 し見守りをしている。訪問調査日には外出しようとする利用 者も見られたが、職員が寄り添い声かけをする様子が見ら れ、日頃は散歩などに出かける対応もしている。居室でセン サーマットを使用している利用者もあり、見守りや声かけな どの柔らかな対応を心がけている。また、法人等が実施する 接遇に関する研修で職員への理解を促すほか、ミーティング 時に施設長は声かけの指導や気になることは注意をしてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 開設時の新人研修の際には行ったが、引き続き高齢者虐待についての理解を深め、意識統一できるよう職員への繰り返しの研修が必要である。ケースごとに対応方法等の話し合いは行えており、発生防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 開設時の新人研修では行っている。月一回のミーティングとホーム内研修の際に取り上げ、制度の理解を深めていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結時には説明を行い、質問に答えるようにしている。改定等があった場合は、文章での説明を行い、不明な点については、面会時や電話等に対応するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や電話、運営指針会議開催時等で、家族の意見や意向を確認している。また、本人へは日常会話やかかわりの中で意向を確認している。意見があった場合は、内部で話し合いを行い、意向にそうよう努力している。3月19日に初回の家族会議の開催を計画している。	
			(外部評価) 意見箱の設置はないが、家族の面会時には職員から積極的に声をかけ、利用者の状況を伝え意見を伺っている。以前、利用者の体重の増減が見られた家族から食事に関する意見が出され、定期的にBMIをチェックして甘いものなど食べ物を調整したりするなど、日々の健康管理にも繋がっている。また、家族から「他の利用者と一緒に食事などをさせて欲しい」という意見が出され、定期的に座る場所を変えている。利用者の食事の座席を定期的に移動やリビングの模様替えにも繋がっている。また、家族会を初めて実施し、家族から「介護は大変よね」などの意見が聞かれ、家族同士の交流や情報交換にも繋がっている。利用者から「〇〇に行きたい」などの意見が出され、少人数でも外出できる対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) リーダーや管理者は、スタッフとのコミュニケーションをとり、関係づくりに努めている。ミーティング時や個別の面接を行い、職員の意見や提案を聴くように努力している。実際に、運営に反映したこともある。 (外部評価) 開設時から一緒に勤務している職員が多く、ミーティングや日常会話の中で意見を言いやすい環境づくりができています。職員から「〇〇したいんだけど」などの意見が出されることも多く、食事のメニューを増やすため定期的に外部業者からの宅配食材を利用したり、浴室内に追加で手すりを設置した事例もある。事業所内で解決できない場合は、法人本部へ意見を吸い上げて改善に繋がることもある。施設長は年1回職員と面談を実施し、職員から日頃聞けない意見を聞くことができ、日頃の業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員との個別面接を行い、情報収集に努めている。個別面接の実施は、今年度1回のみとなったが、もう少し回数を増やしさらに職場環境の整備に努めていきたい。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ホーム内・グループ内への研修への参加や、外部研修へ参加もできる体制を整え実践している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 松山市社協が主催の交流会へ参加をしているが、時間が作れず、参加が難しくなっている。今後は、様々な研修会に参加するよう心がけたい。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) コミュニケーション技術の向上を図り、本人との信頼関係が築けるように努力している。ケースによっては本人の要望が十分に聞けないケースがあるが、関わりの中で要望の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に、面談等でアセスメントを行いニーズの把握に努めている。必要な場合は、複数回の面談や電話連絡を行い、信頼関係づくりをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) グループホームへの入居だけでなく、その他のサービスの利用についても説明を行うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の残された機能・能力が最大限に発揮できる支援になるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族への連絡・報告をこまめにし、家族と相談しながら一緒に支援の方向性を決めたり、家族の協力を得たりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力を得ながら、自宅へ外泊したり、友人との面会や電話連絡の機会をもてるケースがある。出来るだけ在宅での関係が継続できるようにしている。 (外部評価) センター方式を利用して、入居前に利用者や家族からアセスメントを行い、馴染みの場所などを把握している。利用者の希望に応じて、お墓参りや以前住んでいた家の近くに出かけられるよう支援しており、近くに住んでいた友人と会話を交わすこともある。職員は外泊や外出などの希望を確認し、家族と共に外食を楽しんだり自宅に宿泊する利用者も多い。また、友人や民生委員などが尋ねて来ることもあり、馴染みの人との繋がりが継続できるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中はリビングで過ごし、入居者同士の関わりが持てている。入居者の個性の把握に努め、席の配置等も考えて、円滑なコミュニケーションが取れるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 今年度に、サービス利用が終了になったケースはないが、今後そのようなケースが生じた時には、出来る限りの支援に努めていく。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) プランの作成・見直しに合わせて意向の確認を行っている。聞き取りが困難なケースに関しては、自分や自分の家族に置き換え、スタッフ間で話し合いを行っている。 (外部評価) センター方式の「私の暮らし方シート」を使用して、利用者や家族の思いや意向など聞き取りをしている。聞き取った内容は、ミーティングやカンファレンスで計画立案やモニタリングなどに活かしている。訴えの難しい利用者には、家族や以前利用していた施設から情報を聞き取り、ミーティングなどで意見を出し合い、利用者位の支援を検討している。「自宅で暮らし続けたい」という利用者の思いもあり、難しいこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅のケアマネージャーや入院先の病院等から情報収集を行い、入居前の生活状況の聞き取りに努めている。また、本人や家族との面接や自宅訪問も行い、生活環境の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居時の聞き取りの中で、一日の過ごし方については、聞き取り十分とまでは言えないが、心身状態や有する力等の情報収集は行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ホーム内での担当者会は適宜行い、プラン作成している。担当者会への家族参加が難しい場合は、面会時や電話連絡時に意向の確認を行っている。ユニットごとに意見を出し合い、プラン作成している。 (外部評価) 介護支援専門員と利用者毎の担当者がアセスメントやモニタリングを適宜行い、介護計画の原案を作成している。また、月1回のミーディング後にユニット会でカンファレンスを行っており、利用者や家族の意向などの意見も含めて職員間で意見を出し合い話し合っている。また、モニタリングの評価や状態の変化により介護計画を見直すほか、定期的に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 訴え・様子（客観的な情報）・課題判断・方針に分けてケア記録を記入しており、情報共有や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 介護保険のみのサービスにとらわれず、介護タクシーやヘルパー利用等をしているケースもある。話し合いの中で、必要があればサービスの紹介等も行っていく。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣のスーパーに買い物へ行ったり、公園や施設の利用をしている。地域資源との協働については、ボランティア参加によるレクリエーションを行っているが、今後は種々の地域資源を広く把握し、充実に努めていきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 同法人から月二回往診に来てもらっているが、必要時には受診も行っている。同法人以外への受診についても本人・家族の希望があれば、家族の協力のもと受診している。 (外部評価) 入居時に利用者や家族の希望するかかりつけ医を選ぶことができる。希望するかかりつけ医は家族の受診介助を基本としている。母体病院から月2回往診があり、24時間体制で連携が取れており、状態の変化があれば家族にすぐに報告し、病院の受診も職員が協力しながらできていることで、利用者や家族の安心にも繋がっている。施設長は看護師資格を持ち、日々の健康管理や夜間など緊急時の連絡にもスムーズに対応することができている。また、歯科や皮膚科の往診体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師との連携・情報共有は適宜行えている。また、判断に迷うような事はその都度相談できている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の受け入れがスムーズにできるように、情報の提供や支援を行っている。また、入院中も病院側との関わりを持ち、退院時の受け入れが出来るようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 受入の際には、重度化や終末期の説明を行っており、病院の医師や看護師、家族と相談しながら方向性を決めている。 (外部評価) 「看取りに関する指針」などは策定していないが、「医療連携及び重度化した場合における対応について」「看取りについての事前確認書」を作成しており、入居時に利用者や家族に説明して、事前に看取りの確認書を記入してもらっている。今までに重度化や急変した利用者はいたが、病院へ転院している。施設長は今後は事業所での看取りが必要となることを認識しており、看取りに関する外部研修の伝達を行うなど、職員のレベルアップや不安の軽減を検討している。	看取りについての職員に対する研修は、伝達研修に加えて職員同士で話し合いをする勉強会を実施するなど、職員の不安の軽減となる取組みを期待したい。また、看取りを実施するにあたり、協力体制を整える準備をしていくことも望みたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応については、ホーム内研修を行っているが、全てのスタッフが十分対応できるように研修内容の充実を検討していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) H26年度に、消防訓練を2回実施。また、地域との協力体制づくりについては、消防訓練時に町内会長や民生委員にも参加いただいて実施しているが、今後は自主防災会等の関係づくりをするよう努めていく。 (外部評価) 防災マニュアルを整備し、日中と夕方を想定した避難・消火訓練を実施している。訓練には地域住民への呼びかけも行っているが、地域住民の参加はごくわずかとなっている。避難訓練は、開設して1年ということもあり利用者の参加は様子見の段階であるが、消防署から「次回の訓練は利用者も一緒に訓練してください」とアドバイスをもらっており、利用者が実際に参加した訓練を実施予定である。また、施設長は地域の自主防災会との関係作りも模索している。	消火・避難訓練などに加えて、防災用の備蓄品の用意を検討し、準備していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者のプライバシーを確保できるよう心掛けている。言葉かけの内容や、声の大きさ、対応方法などは入居者様により使い分けている。 (外部評価) 利用者の呼び方は利用者や家族に確認し、性や名、馴染みのある特別な呼び方をするなど工夫をしている。職員は利用者にとって分かりやすい声かけをするよう配慮すると共に、トイレ誘導時には耳元で小声での声かけをしている。年4回発行している「ミネルワ便り」への写真など、事業所を利用していることを知られたくない利用者や家族に配慮し、適切な個人情報の取り扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 散歩や買い物、観劇等は本人に選択してもらえる言葉かけや関わりを心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 全てを一人ひとりのペースにすることは難しいと思うが、可能な限り希望にそえるよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人と家族の希望を確認し、家族と美容室に出かけたり、スタッフと衣類の買い物に出かけている。入居者の状態によるが、自分で着る洋服を選ぶことの出来る方には、そのように対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者の出来る事を見極めて、一緒に調理してもらったり、盛り付け、配膳、後片付け等をしている。 (外部評価) 月に半分程度は外部業者に食材を発注し調理することで、食事のメニューが増え利用者に喜ばれている。残りは事業所内でメニューを考え、専属の調理員が月～金曜の昼食と夕食の調理をしている。朝にその日の昼食で食べたいものを利用者から聞くこともあり、うどんなどの麺類を調理するなど、メニューに対する要望や意見を聞く努力がなされている。月2回利用者の好きな新鮮な「さしみ」を提供し、食事が楽しみになる工夫をしている。リビングにあるアイランドキッチンには開放的で、簡単な調理や皿洗いなどできることを手伝ってもらったり、男性の利用者もテーブル拭きなどを手伝っている。また、食事前には健口体操をし、口腔ケアにも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 十分な栄養摂取は出来ているが、定期的な体重測定を行い、適切な体重コントロールが出来るよう支援している。また、必要なケースについては、水分量のチェックも行っている。入居者の好き嫌いを把握し栄養摂取できるように工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを実施し、スタッフの支援が必要なケースについてはスタッフが介助している。また、治療が必要な入居者や口腔ケアを希望する入居者には、歯科往診にて対応しスタッフとの連携もとっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、排泄リズムの把握に努め、トイレ誘導等を行っている。出来る部分は入居者にしてもらえよう声掛け等をしている。 (外部評価) 排泄チェック表を活用し、排泄の自立に向けた取り組みがなされている。履くパンツから布パンツへの改善された利用者が2名おり、職員はトイレ誘導などに力を入れている。運動や腹部マッサージ、水分摂取など緩下剤をなるべく使用しない取り組みがなされ、難しい場合は下剤での対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動、腹部マッサージ・ホットパック、水分摂取、牛乳、オリゴ糖の飲用等の工夫を行っている。重度の便秘時には主治医に相談している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番や午前・午後の希望については出来る限り意向にそうようにしている。入浴の回数に関しては、清潔を保持するため週3回の入浴を決めている。今後は本人や家族の意向を確認し、個別に支援できるように検討したい。 (外部評価) 入浴時間はできる限り利用者の希望に添えるよう努め、誘導を工夫しながら週3回の入浴を実現している。体調が悪く入浴できない場合には清拭を行い、汚染時はシャワーを使用するなど清潔保持に努めている。また、ゆず湯や肌がしっとりする入浴剤などを活用したり、ゆらら温泉に足湯に行くなど、入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の習慣や体調に合わせて、休息の時間を持ってもらえるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用等の説明書をカルテに挟み、スタッフがいつでも見れるようにしている。また服薬管理表を作成し、薬の変更等が分かるようにしている。薬の変更があった場合は、身体状況などを細かく支援経過に記録するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人のしたい事、行きたい所、食べたいもの等を日々の会話の中から引き出し、出来る限り実現できるようにしている。本人の出来ることは積極的にしてもらえよう心掛けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所への外出、散歩やドライブなど、可能な時は声掛けし外出の支援を行っている。家族の支援で外出する方もいるが、地域の協力での外出は、今のところはない。 (外部評価) 利用者の希望や状況に応じて、近所のスーパーやコンビニに買い物に出かけたり、近くの池にいる亀にえさをやりに行ったり、ドライブに出かけるなど、天気や人員配置を工夫して数多く外出できるよう支援している。外出の際には家族にも声をかけ、歌謡ショーや宝塚の松山公演、イチゴ狩りなどに出かけている。その日の利用者の希望を聞いて、少人数で外出することも多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物時の支払いを、入居者にしてもらう事はある。本人の所持金は預かってないため、支援できる方法はないか検討していきたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要な場合には、電話をしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が心地よく過ごせるように、環境については配慮している。また、季節を感じられるように花を飾ったり、飾りつけをしている。 (外部評価) アイランドキッチンは開放感があり、ソファなどがある広いリビングと畳スペースもあり、くつろげる空間となっている。居室の入り口から廊下へ出る部分は「アールデコ」という建築様式を取り入れた空間の配慮がなされており、廊下の収納も有効活用されている。また、玄関に季節の飾りをしたり、リビングでメダカを飼育したりしており、居心地の良い空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングには、ソファが置いてあり、皆で過ごせるようにしている。また、和室もあり少し離れて過ごす事も可能にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に置く物については、使い慣れたものを持ってきてもらうように説明している。家族写真や好きな物の写真等を飾っている入居者もいる。 (外部評価) 居室は広く、ベッド、エアコン、カーテンが備え付けられている。家具やテレビ、いす、写真立てなど使い慣れたものを持ち込み、生活しやすい空間作りをしている。ベッドの配置は自宅での生活状況を踏まえて配置する工夫をしており、利用者にとって居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、居室に張り紙や目印をつけて分かりやすくしている。身体状況に合わせて、車いす移動やシルバーカーの使用等で、自分で移動できるようにしている。一人ひとりの状況把握に努め、必要な支援を行うように心がけている。	